

■H30.12.3 市長定例記者会見内容

日時 平成30年12月3日(月)午前11時～

場所 庁議室

出席 市長、副市長、総務部長、危機管理監、健康福祉部長、人事課長、企画調整課長、都市デザイン課長、介護保険課長、教育委員会企画管理課長、市長公室長
酒田記者クラブ 7社(山形新聞、荘内日報、読売新聞、毎日新聞、NHK、TUY、YBC)

■内容

発表事項なし

◎フリー質問

【市職員の飲酒ひき逃げについて】

記者／今現在、どこまで事実確認し話が進んでいるのか。

市長／まず、事件が起こりすぐに副市長から謝罪会見を行ってもらった。市民に申し訳なく、私も責任を感じており、残念。この場を借りて改めてお詫び申し上げる。申し訳ない。その後は成り行きを見守ってきた。起訴されたが起訴状の書面は確認できていない。ただ起訴の対象となったのは4月22日、11月19日の2件と伺っており、その点について本日本人に面会し事実確認し、間違いないとのこと。市としても早急に審査会を開いて処分を決めたい。

記者／4月の飲酒は市に対して報告なかったのか？

市長／なかった。報告義務を怠っているのもそれも踏まえて処分を決めていきたい。

記者／飲酒した理由は？

人事課長／飲酒の理由は、「さまざまなストレスに負けてしまった」と本人と面会した際に言っていた。

記者／飲酒したタイミングは？

人事課長／鶴岡に向かう車の中で飲酒したと本人から聞いている。

記者／処分の時期的なめどは。

市長／明確な日付はまだ。速やかに審査会を開いて決定していきたい。

記者／酒田市では市職員の飲酒にまつわる不祥事が続いているが、その後市役所内部での対応は？他自治体では職員の飲酒を自粛した結果、地元飲食店への影響が大きかったといわれた事例もあるが。

市長／通常の文書での職員への通知に加えて、各職場でも、法令遵守の徹底などについて指導していく必要があると思っている。そこは人事担当部署と詳細を詰めている。職場単位でも、行政全般にも影響を及ぼしかねないので、敬愛される市職員を心がけるよう指導していきたい。時節柄地元飲食店への影響も大きいので、飲

酒の自粛はしないが飲酒したら乗らないように厳しく徹底していく。

記者／研修などの時期のめどがついているのか？

市長／全職員一堂に会してという形ではなく、職場単位での研修や指導を徹底したい。

年は越してしまうが、プログラムを組んで取り組んでいきたい。

記者／原因がストレスとの話もあった。ストレスへのメンタルケアも必要では。

市長／副市長にも調べてもらっているが、あまり知られていないメンタルケアの方法がある。大事になる前に相談機能を利用してストレスをためないように指導していきたい。働き方改革ではないが、業務の量・質も考えていかなければならないと思っている。また、職員1人1人の自覚、自己管理をもっと職員に求めていかなければならないと思う。私もそうだが、各部課長にも指導を徹底してほしい。

記者／自己管理を求めることがストレスになるということもあるのでは

市長／消防では匿名の相談機能が導入している。市役所は入っていないので考えていかなければならないかもしれない。ただ消防のその制度も利用件数が少ないので、職場文化・環境をつくっていかねばいけないと思う。ストレスは家庭の問題も絡むのでどこまで踏み込むか難しいが、組織としての対策を研究していかなければと思っている。

記者／酒の酒田を売り込むのに変な解釈をされないよう、楽しみ方も知っているという酒田というようにしてもらいたい。確認だが、4月の飲酒はいつどのように情報が入ったのか。

市長／起訴されたという新聞報道を見て初めて知り、今日、本人に面会して確認した。

【中高一貫校について】

記者／酒田でも説明会が始まって話題になっている。市長の考えは以前から変わらないか。

市長／個人としての考えは基本的に今のところ変わっていない。ただ、庄内地区中高一貫教育校設置に係る懇談会がもう1回あるなかで有識者がどう考えるのか。小学生が中学校を選択するのは小学校教育もかかわるので教育委員会がどう考えるのか。市民の代表である市議会がどう考えるのか。市長として個人の思いはあるが、県に対する公式な回答としては、この3つの考えを反映して総意として、県に出したいと思っている。

記者／県からの回答期限は？

市長／12月31日まで。懇談会が終わったら市議会の意見も聞いて意見出したい。